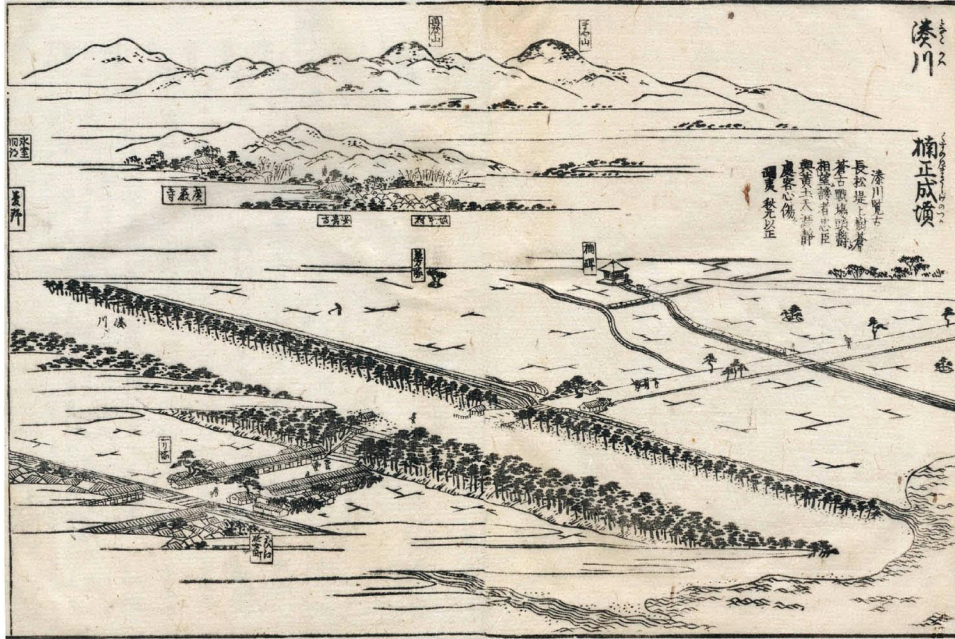


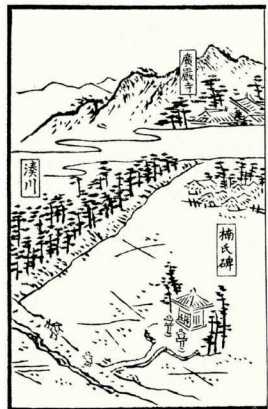
# 湊川から 新開地へ

「新開地」つまり「新しく開けた土地」は、本来「湊川」という冠がついて「湊川新開地」といった。かつて川筋だったことが忘れられて一般名詞である「新開地」が独り歩きし、固有名詞化した。近代神戸を代表する詩人・竹中郁はこう述べている。

新開地という名がついたときいて、ヘンな名だなあとかんじました。それまでは「ドテ」という名でなじんでいました。(神戸史学会編「歴史と神戸」1964年4月号)



寛政期に流行った名所案内『摂津名所図会』(1796)に見える湊川と楠木正成墳。湊川はすでに天井川となっていて坂を登らなければならなかったが、ふだんは水がなく歩いて渡れた。



大阪から播州姫路までの街道沿いの名所案内『播磨めぐり』(1772年)に見える楠公碑と湊川。

湊川は高さ6mにおよぶ堤防(土手)をもつ天井川で、兵庫と神戸のあいだに横たわって交通の妨げとなっていた。明治中期の地図を見ると鉄道の神戸駅が川の手前でストップし、ねじ曲がっている。流出土砂による三角州は海に突き出て二つの港を分断している。

楠木正成と足利尊氏の湊川の戦いでも知られる湊川の名は、古くは8世紀の法隆寺の史料にも登場する(弥奈刀川)。もとは今の上沢、下沢、永沢あたりを流れて和田岬の方へ注いでいたとされる(古湊川)。扇状地を流れるため流路不安定で氾濫を頻発、その後、今の新開地方面に付け替えられて両側に堤防が築かれ、天井川となった(旧湊川)。見晴らしのよい高い土手に老松の茂る景勝地で、江戸期の名所案内にはこう謳われている。

兵庫名所 七宮祭り 和田の笠松 築島寺 梅は岡本 桜は生田 松は兵庫の湊川

## 旧湊川の土手と橋

「湊川は只今の湊川公園と同じ高さの土堤が川崎造船所の近くまであって、土堤の上には大きな松がたくさんありました。橋は聚楽館前とガスビル前と湊町一丁目電停にあった。川と申しても天井川で水の流れるところは民家の屋根の上くらいのところを流れているが、しかしそれも雨の日だけで、常日はきれいな砂ばかりで子供の遊びには恰好の場所でした。」(松本寛作「歴史と神戸」一九六四年四月号)



洗心橋付近。遠景山麓の塔は祥福寺。

▼明治30年頃の琴平橋付近。兵庫側の土手。橋を渡ると金刀比羅宮がある。



▼新橋付近。広い土手には水茶屋があって人々が憩った。明治の親水空間。



明治18/19(1885/86)年二万分の一地形図(大日本帝国参謀本部陸軍部測量局作成)に基づく



# 湊川 隧道

明治34年  
(1901)  
8月竣工

砂礫と粘土層からなる会下山の掘削は難工事。ツルハシとシャベルの手掘りで600m掘り抜いた。写真は東側の入口(呑口)。坑門デザインは古典様式。湊川と大書された石の扁額は今、新湊川トンネルの呑口を飾っている。

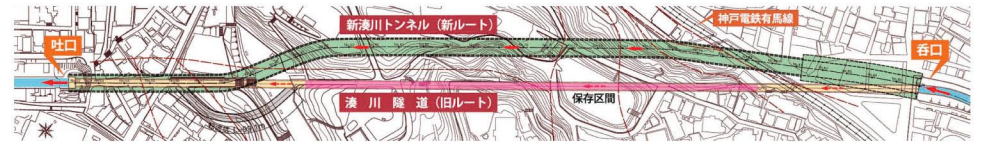
旧湊川の移動は賑やかな新開地を生んだが、新湊川の移動は沈黙の地下空間を残した。会下山の下に横たわる百年前の長大な煉瓦トンネル、「湊川隧道」がそれである。

湊川の付替え工事は、兵庫運河開削と鳥原貯水池・奥平野浄水場などの上水道事業と並ぶ、明治期神戸の三大土木事業のひとつだった。4年にわたる工事は、洗心橋のところから新しい水路を掘り、会下山の下をトンネルで通したあと西に向かい、苅藻川と合流させて海へ流す、という大規模なもので、民間の湊川改修株式会社が請け負い、当時有数の土木技術者が関わった。施工は大

倉組(現・大成建設)。湊川隧道はこの際につくられた日本初の河川トンネル。延長約600m、幅7.3m、高さ7.7mの馬蹄形断面のトンネルが、約450万個の手積み煉瓦で築造されており、当時世界最大級といわれる。トラックもクレーンもない時代に、10tトラックで1400万台にあたるという大量の煉瓦が、泉州から船で運ばれ、神戸港から陸送され、ひとつひとつ手で積み重ねられていった。当時最先端の土木工学技術と、職人たちの手わざは阪神淡路大震災にも耐えぬだけの内部空間は、瞑想的ともいえる気配に満ちている。



側壁はイギリス積み、アーチ部は長手積み、天井の一部は堅積みなど、煉瓦は場所に応じて異なる積み方が工夫されている。川の流れる河床部は、煉瓦の上に洗掘摩耗に強い花崗岩を切石として敷き詰めている。



湊川隧道パンフレット(神戸土木事務所)に基づき作成

大震災後の新湊川の復旧工事に伴って、北側に新たにバイパストンネルがつけられた(新湊川トンネル)。役目を終えた湊川隧道は、高い歴史的価値をもつ近代土木遺産の傑作として、全面保存されることになった。2001年7月には隧道の保存活用を考える「湊川隧道保存友の会」が設立された。

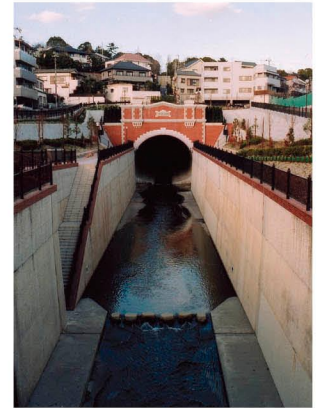
\*まだ一般公開はされていないが、土曜の日(11月18日)など年に数回見学会が開催される。市民による活用方法のアイデアも募集している。

### ■問合せ

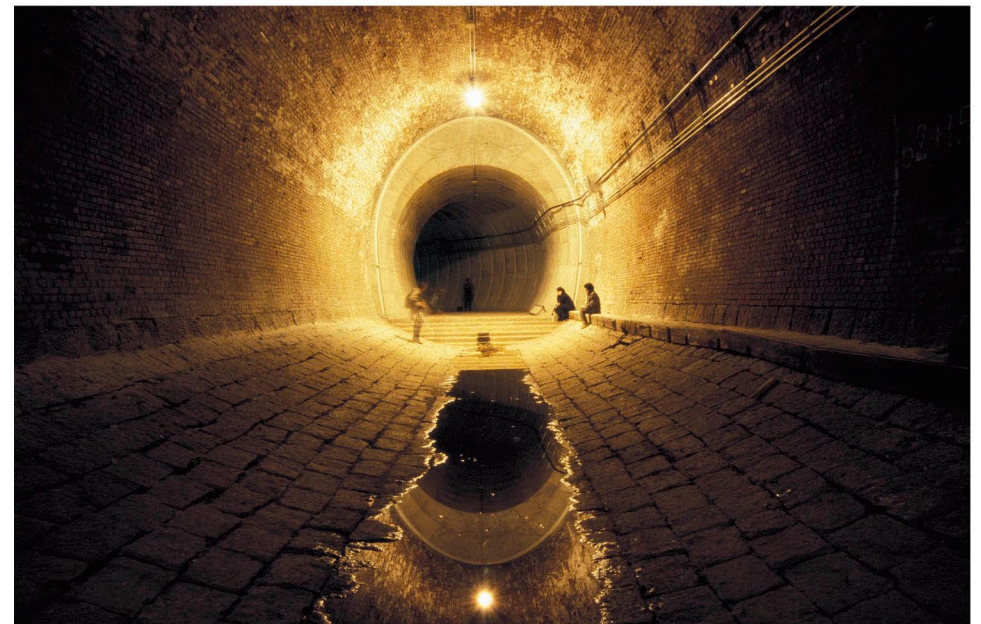
・兵庫県神戸県民局県土整備部神戸土木事務所 <http://web.pref.hyogo.jp/kobe/doboku/minatogawa/>

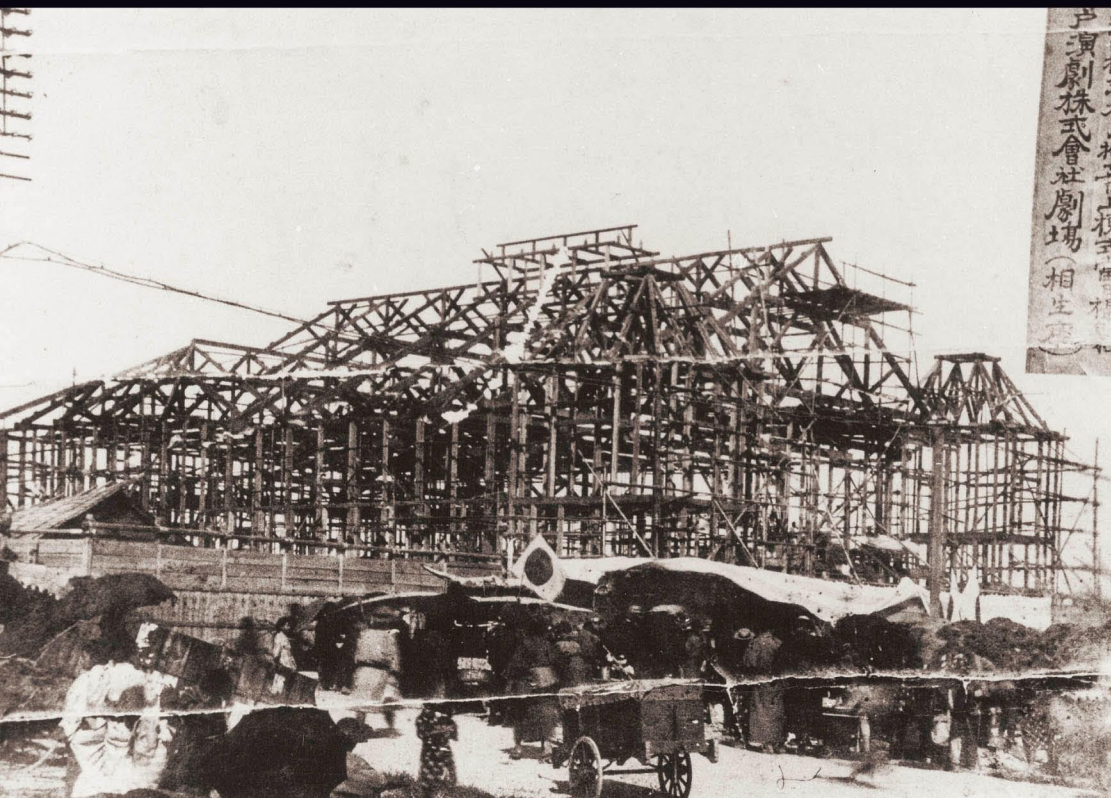
・湊川隧道保存友の会事務局  
TEL&FAX 078-371-3536

■呑口側へのアクセス[広域地図①]  
神戸電鉄湊川駅より750m 徒歩10分  
熊野橋バス停下車280m 徒歩約4分



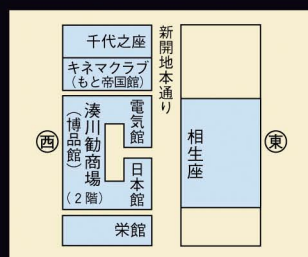
上：旧隧道と新湊川トンネルの間につくられた転流坑。昔の施工法と対比できる。  
右：ゴシック様式のデザインが復元された西側の出口(吐口)。天地悠久をうたう老子の言葉「天長地久」を刻んだ百年前の扁額がそのまま飾られている。





新開地誕生

神戸駅近くの相生町にあった相生座が明治38年、山田九州男（山田五十鈴の父）一座の公演中に出火し全焼したため、明治40年、荒地だった新開地に進出した。写真は9月の上棟式。歓楽街の「新開地」が生まれた瞬間であったといえる。その後、次々と劇場や映画館が立ち並ぶことになる。河原に大道芸人が集まり、商売と結びつきながら演劇空間が発展するという歴史のパターンが、もと川筋だった新開地でみごとに実現されていく。（写真：神戸新聞社提供）



明治末の興業場の位置関係



湊川神社時代の水族館

明治末期、誕生間もない新開地。本通りを南に望む。左に相生座。右に帝國館、湊川勸商場（後の神戸デパート）、栄館（現在のポートピアあたり）が見える。帝國館の建物は湊川神社にあった水族館が移築されたもの。湊川勸商場の一階には電気館と日本館という映画館があり、淀川長治さんの母親が鑑賞中に産気づいたという。



細川能嗣 (54歳)  
オリビア  
TEL 078-575-5298 [地図 8]

親父が果物屋やって福原に品物を入れとったけど赤線の廃止でパチンコに商売替えをしたんや。商売、山あり谷ありやけど新開地はうちらにとっては商売しやすいまちやな。近くに同じ業種が何軒もある方がええねん。うちが新台入れて失敗してもお客さんはよその地域に行かへんから独占と違って競合がええってこっちは。パチンコのイメージは色々あるけど遊技場は風俗営業法の7号に定められてる許可営業やから、警察から守られてるみたいなもんでしっかりしとるで。

大正12年から先代が長田で始めたこの商売。おもとは姫路の造り酒屋ですわ。昭和30年頃こちらにも店舗を出したんです。その当時はうちみたいな立ち飲み場所付きの酒屋さんがこちらにようけありましてね。安上がりやし、川重の職人さんが帰りがけに寄って来て忙しかったね。親はかまってくれへんけど近所の年上がよう面倒みてくれたなあ。いろんな家庭があったから、貧しさやいいかげんさも混じりあって、いろんなことを教えてくれる街やったんとちがうかな。

岡本充治 (50歳)  
岡本酒店  
TEL 078-577-4976 [地図 6]

